

2026年3月17日

東京柔道整復専門学校
学校長 殿

東京柔道整復専門学校
学校関係者評価委員会
委員長 中川 忠典

2025年度学校関係者評価報告書

標題につき、下記のとおり報告いたします。

記

- 1) 2025年度 学校関係者評価委員会 議事録 (資料1)
- 2) 【2024年度自己点検・評価】評価基準項目ごとの評価 (資料2)

以上

日時：2026年3月4日（水） 13:30～14:00
場所：東京柔道整復専門学校会議室（オンライン参加を含む）
出席者：

<出席委員>

- ・健向接骨院グループ代表 中川 忠典 ※議長
- ・東亜学園高等学校教員 高木 志貴
- ・在校生保護者 荒井 一彦
- ・東京柔道整復専門学校 卒業生 吉田 晋

<欠席委員>

- ・元仲二町会会長 風祭 喜久夫

<学校側参加者>

- ・東京柔道整復専門学校 副校長 高山 嗣生
- ・ 同 教務課長 大林 典弘
- ・ 同 事務長 西村 勉
- ・学校法人杏文学園 法人事務局長 菊田 俊和

議題：報告事項 1) 前年度（2024年度）の状況報告および今年度（2025年度）の進捗報告
審議事項 1) 前年度（2024年度）自己点検評価報告書について

開会にあたり、委員数5名のところ、4名の出席により本委員会が成立していることを確認した。

1. 報告事項

1) 前年度（2024年度）の重点項目と評価

西村事務長より資料「2024年度の重点項目と評価/2025年度の取り組み状況」に基づき、2024年度重点項目に関する報告がなされた。

(1) 単位制移行初年度として、スムーズな運用に注力する

【2024年度評価】

- ・総じて大きな混乱なし。
- ・想定外の事案が細々と発生し、それらの判断に時間を要して学生に不便をかけたことは反省点。

【2025年度取組状況】

- ・教務の属人的運用を解消する「教務委員会」を設置し、組織的に先回りした検討をできるようにした。

(2) 教育活動の充実：

①国家試験の高合格率の維持

【2024年度評価】

- ・少人数教育の徹底、ウィークリーテストの実施により学生の習熟度把握に努めた。
- ・これら取り組みにもかかわらず、合格率は20%弱下落した。

【2025年度取組状況】

- ・すみやかに近年の出題傾向を再分析し、授業に反映した。

②医療人としての自己研鑽の重要性理解

【2024年度評価】

- ・自ら学ぶ姿勢を涵養するために、アウトプット型学習のメソッドを補習に取り入れた。
- ・これらを正課のカリキュラムにどう取り込んでいくかは今後の課題。

【2025年度取組状況】

- ・実技についても「自ら考える」手法を取り入れた自習環境を導入した。

③全員参加型の学校運営体制の発展

【2024 年度評価】

- ・ 2023 年度に開始した全員参加型の学校運営を継続した。
- ・ 意思決定に時間がかかる、各参加者の消極的参加が増えるなど、マイナス面が顕在化した。

【2025 年度取組状況】

- ・ 少人数による委員会を複数設置し、役割を分担・明確にした。

(3) リスクマネジメント意識の醸成

【2024 年度評価】

- ・ 2 か年計画で進めてきたコンプライアンス研修を継続した。
- ・ コンプライアンスに関する理解度は高まったので、これを行動に落とし込んでいくことが今後の課題。

【2025 年度取組状況】

- ・ 本校のリスクを自ら考え自分事化するグループワーク形式の施策を実施した。

(4) 教職一体での学生募集活動の実施

【2024 年度評価】

- ・ 高校等での出張授業等に、積極的な教員の動員を行った。
- ・ 一部教員に負担が偏り、本来の授業に影響が出るなどが起きてしまった。

【2025 年度取組状況】

- ・ 広報課からの依頼を教務課長が振り分ける流れを取り入れたことで、過度な偏りは解消した。

(5) 中退対策

【2024 年度評価】

- ・ 入学前教育を通して、入学前から学生間の相互理解を深める取り組みを行った。
- ・ 入学前教育を通して、アラート学生の把握を行った。

【2025 年度取組状況】

- ・ 入学直後からアラート学生への面談を強化し、それら学生の特性把握等を進めた。

2. 審議事項

1) 前年度（2024 年度）自己点検評価報告書について

中川委員長から以下3点の質問があった。

【質問】 [2 ページ] 外部の情報を効果的に使いこなせていない件には、どのような取り組みを実施したか？

【回答】 役割を明確にした委員会を設置し、情報の持って行き先を分かりやすくした。委員会を設置したことで、これまでの属人的な情報活用から、組織的な活用に改まるという副次的な効果も得られている。(高山副校長)

【質問】 [6 ページ] 同窓生との関係強化について、どのような取り組みを実施したか？

【回答】 卒業生に「学校に期待すること」のヒアリングを実施した。その結果、学校よりも同窓会に期待する部分が大きいことが分かってきたので、同窓会との連携を強化すべく動き始めたところである。(高山副校長)

【質問】 [7 ページ] 保護者連携が不十分との自己評価だが、今年度どのような取り組みを実施したか？

【回答】 保護者と情報連携を行う基準と方法をマニュアル化し、担任によらず同じ水準の情報連携を実現できるようにした。(大林教員)

以上にて、審議の終了が宣言され、本会を閉会した。

以上

(1) 2024年度の重点項目と評価

0. 単位制移行への注力

- ・ 学年制から単位制移行の初年度として、スムーズな運用に注力する。
→ 概ね問題がなかったことを確認した。

1. 教育活動の充実

- ・ 2023年度に続き、国家試験の高合格率を維持する。
→ 少人数授業による取り組みを行ったことを確認した。2024年度は残念な結果に終わったとのことだが、その結果を踏まえ新たな取り組みに着手したとのこと。PDCA サイクルを回す教育マネジメントが導入されている。
- ・ 医療人として自己研鑽の重要性を学生に理解させる。
→ 学生自らに考えさせる仕掛けを授業に取り入れたことを確認した。2025年度はその仕掛けを拡大したとのこと。教育改革が積極的に進められている。
- ・ 2023年度に開始した全教員参加の学校運営体制を発展させる。
→ 2025年度から大幅な体制変更を進めていることを確認した。試行錯誤を繰り返しながら、最適な体制を模索する動きが進められている。

2. コンプライアンスの見直し

- ・ 教職員一人ひとりに、それぞれが学校運営を担うチームの一員であることを自覚させ、必要なスクマネジement意識を醸成する。
→ 計画的に研修を実施していることを確認した。研修が一段落し、現在は知識を行動に落とし込むための工夫を進めている。

3. 学生募集活動(定員充足)

- ・ 教員と広報課の連携を強化し、本校の魅力を過不足なく伝える学生募集活動に繋げる。
→ 教員による学生募集活動に注力し始めたことを確認した。残念ながら、定員充足には至らなかったとのこと。効果検証をどのように行っているのかが不明瞭である。

4. 中退者対策

- ・ 入学前教育及び各学年担任の学生教育相談・指導の充実を試みる。
→ 入学前教育を通してアラート学生の把握に努めたことを確認した。適切な対応が取られており、2025年度の退学者数が前年比で半減している。

(2) 基準1 教育理念・目的・育成人材像

建学の精神を軸に、ステークホルダーの意見を柔軟に取り入れる体制を整えている。

ステークホルダーの意見を十分に生かし切れない組織構成が課題であったが、これについては改善に向けた動きが取られている。

(3) 基準2 学校運営

組織的に適切に運用されている。さらなる発展に向けて、意思決定システムの見直しや、従来型の業務慣行スタイルからの脱却が進められている。

(4) 基準3 教育活動

学年ごとの到達目標を定めたうえで、ステークホルダーの意見を柔軟に授業に取り入れた質の高い教

育活動を展開している。

FD に対する取り組みが教員の主体性に委ねられているため、組織的な運用への転換が望まれる。

(5) 基準4 学修成果

柔道整復師養成施設という高い専門性ゆえに、高い就職率を実現している。これに満足することなく、卒業生との連携を深めることで、質をも担保した高水準の就職率の維持を目指している。

(6) 基準5 学生支援

必要な学生支援が担保されている。それを強化すべく、保護者との連携を進め、学校と家庭の双方による学生支援体制の構築を行っている。

(7) 基準6 教育環境

消防計画に一部更新漏れが確認されている。速やかな対応が望まれる。

(8) 基準7 学生の受入れ募集

公益社団法人東京都専修学校各種学校協会の指針に沿って適切に運用されている。

(9) 基準8 財務

入学者の減少により収入超過額が下降しているが、中期的な財務基盤は安定している。

(10) 基準9 法令の遵守

関係法令を参照しながら日常の業務にあたっており、諸届や報告も適切に行われている。

(11) 基準10 社会貢献・地域貢献

教育資源の地域・社会への還元が行われている。しかしながら、実施の目的が学生に十分に浸透しているとは言い難い点は課題である。

以上